

# 教職員自主的研究推進事業 実績報告書

研究グループ名【赤穂市特別活動研究部】

代表者の所属・職・氏名	赤穂市立高雄小学校	連絡先	住所	赤穂市高雄2240-1
			TEL	0791-48-7870
	FAX		0791-48-7824	
	e-mail アドレス		koumu@takao-e.ako-hyg.ed.jp	
	教諭 東 豊			

## 活動実績

### 研究テーマ

こころ豊かで自立した人づくりをめざす特別活動  
～自発的、自治的な活動の指導を深めて～

### 研究の概要

自立した人づくりにおいて最も関連性が深いと感じる「特別活動」について、研究を深め、日々の学級経営に生かしていけるようにする。特に自発的、自治的な活動である「学級活動（１）」について、学級会の指導法、振り返らせ方、実践における留意点などの研修を行い、子どもを中心に据えた学級経営や教科指導が展開できるようにしていきたいと考えて研修を行った。また、特別活動は大学等の講義では身につけにくい内容が多く、特に若手の教員においては経験不足からよく理解せずに取り組んでいる場面を見かける。若手の教員の研修の場としての活用となれるようにしたいとも考えて研修した。

5月27日（金） 1年間の計画と学級経営と学級活動（１）の基本的な進め方について

場所：赤穂市立高雄小学校

参加人数：5名

内容：1年間の計画の計画と、4月から今までの学級経営についての不安や疑問を出し合い、それに答える形で研修会を進めていった。また、学級活動（１）の基本的な進め方について研修しながら、その内容をどう学級経営に結びつけていくかを議論した。

6月24日（金） 学級活動（２）の具体的な指導法について

場所：赤穂市立高雄小学校

参加人数：4名

内容：7月に行われる赤穂市特別活動研究部会の学級活動（２）の指導案をもとに、学級活動（２）の具体的な授業の展開について、授業者と赤穂市特別活動研究部の部員を交えて議論をした。今回の題材が家庭学習をパワーアップするために何を自己決定し、実践させればよいかということを話し合った。そのためには問題の意識化が重要であり、それを視覚化できるようアンケートを円グラフにして見せたり、家庭での様子を模造紙にまとめたりすることで効果があるのではないかという結論に至った。

10月27日（木） 学級活動（1）の具体的な指導法について

場所：赤穂市立高雄小学校

参加人数：7名

内容：11月26日（土）に行う赤穂市特別活動研究部主催の研修会の詳細について話し合った。特にワークショップについて、学級活動（1）における学級会の具体的な指導法を研修できるよう、学級会の模擬授業だけではなく、議題選定、計画委員会、学級会、集会活動までしようという内容で決定した。そのために、赤穂市として共通理解すべきことを考え、議論を行った。

11月26日（土） 「特別活動」から示す、主体的、対話的で深い学び

場所：関西福祉大学

参加人数：44名

内容：○学級活動（1）ワークショップ

→模擬学級会を通して、今後の授業に生かすことができるようにした。

○特別活動Q&A

→講師、平野 進（熊本市立清水小学校校長）橋本 大輔（文部科学省勤務）東 豊（赤穂市特別活動研究部代表）の3人が、参加者の質問にそれぞれの立場から答えていった。

○講演「これからの特別活動のめざすところ」

講師 脇田 哲朗 先生（福岡教育大学 教職大学院 教授）

→今年度末に公表される学習指導要領の特別活動のワーキンググループの委員をされ、現在とこれからの特別活動の方向性を熟知されておられる先生に、特別活動の意義や、これから特別活動が育てていく資質、能力についてお話していただいた。

※今回当初8月下旬に予定していた愛媛大学教授の白松 賢 先生が多忙でスケジュール調整がつかず、予定を変更して11月に行う運びとなった。

12月2日（金） 学級活動（1）の具体的な指導法について

場所：赤穂市立高雄小学校

参加人数：5名

内容：12月に行われる赤穂市特別活動研究部会の学級活動（1）の指導案をもとに、学級活動（1）の具体的な授業の展開について、授業者と赤穂市特別活動研究部の部員を交えて議論をした。今回の議題が「クリスマスパーティをしよう」のため、その柱は何を立てるべきか、三段階討議法で進めるための留意点は何かを議論しながら研修した。

2月10日（金） 1年間の総括

場所：赤穂市立高雄小学校

参加人数：5名

内容：1年間を振り返り、研究部としては研修が深まったが、それを広く一般化できていないという問題点が出された。そのためには現在の三段階討議法が、まだまだ難しいため、さらに細分化して指導できるように考えていく必要があるのではないかという結論が出た。今後は、その内容を実践しながら、研究していきたいと部員一同感じている。